

# 千歳清掃工場だより

第 50 号

ホームページ <https://www.union.tokyo23-seisou.lg.jp>

## 環境調査結果のお知らせ

当工場の環境調査結果は、下表のとおりです。各項目とも環境法令に基づく法基準値、さらに厳しく定めた操業協定書の基準値を下回っています。今後とも、公害防止及び環境保全に努め、環境負荷の低減に取り組んでいきます。

### 排ガス調査結果

調査項目	基準値		調査日・調査値			単位
	法律	協定書	令和4年4月15日	令和4年6月30日	令和4年8月29日	
ばいじん	0.08	0.02	不検出	不検出	不検出	g/m <sup>3</sup> N
硫黄酸化物	130	20	5	7	5	ppm
窒素酸化物	84	70	45	46	53	ppm
塩化水素	430	15	9	10	10	ppm
水銀	50	—	0.51	0.37	0.51	μg/m <sup>3</sup> N
ダイオキシン類	1	—	0.000000039		0.000015	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N

※「不検出」とは、定量下限値未満を表します。ただし、水銀は環境省が提示した表記方法に則り、定量下限値未満で検出下限値以上の数値は括弧書きで示し、検出下限値未満を「不検出」とします。

※m<sup>3</sup>N(ノルマル立方メートル)とは、0℃、1気圧の標準状態における気体の体積を表します。

※ppmは、100万分の1の割合を表します。ng(ナノグラム)は、10億分の1グラムの質量を表します。

※TEQ(毒性等量)とは、ダイオキシン類の量をダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値です。

※排ガス調査における各項目の値は、酸素濃度12%換算値です。

## 延命化工事について

千歳清掃工場では、令和5年度から令和6年度にかけて例年の定期補修工事では行わない大規模な整備を行う延命化工事を予定しています。

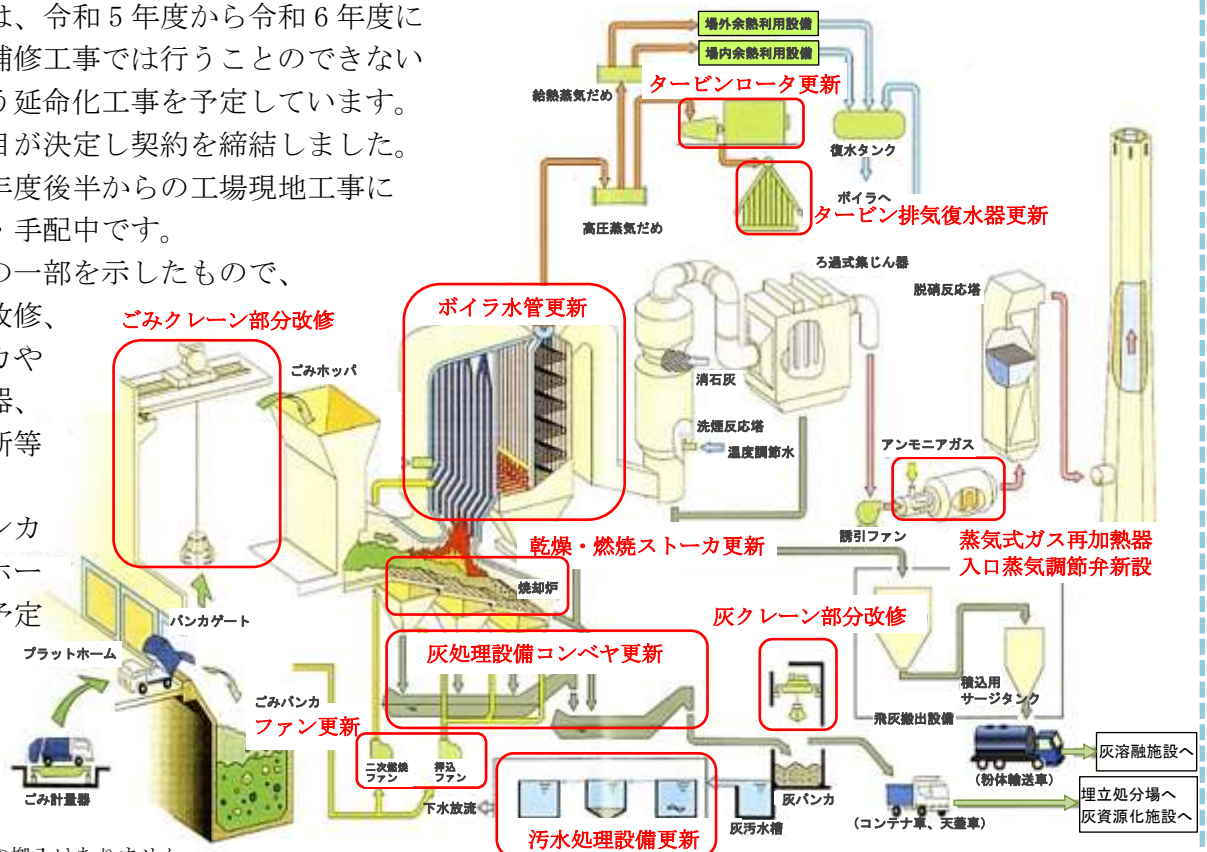
この度、工事項目が決定し契約を締結しました。

現在は、令和5年度後半からの工場現地工事に向けて機器の製作・手配中です。

右図は工事対象の一部を示したもので、

各クレーンの部分改修、乾燥・燃焼ストーカやタービン排気復水器、汚水処理設備の更新等を行います。

その他にごみバンカゲートやプラットホーム出口扉の更新も予定しています。



※延命化工事期間中はごみの搬入はありません。  
 臭気対策として、工事が始まる前にごみを貯めるごみバンカの清掃を計画しています。

## ●●●定期補修工事を行っています●●●



<蒸気タービン羽根車>

今年度の定期補修工事を10月中旬から12月上旬にかけて実施しています。その中で、4年に一度の蒸気タービン発電機の法定点検を行います。  
蒸気タービン発電機とは、ごみの燃焼により生じた蒸気でタービンの羽根車を回転させ、その回転力を用いて発電する装置です。千歳清掃工場では10,000kWの発電容量を有しており、これは一般家庭の約20,000世帯分の電力に相当します。  
これからも安全な工場運営を目指し、点検・改修を計画的に進めていきます。

## ●●●工場見学・各種イベントの再開と報告●●●

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて工場見学・各種来場イベントを中止していましたが、昨今の社会情勢を鑑みて再開しています（補修工事や延命化工事の期間を除きます）。

工場見学の流れは、清掃工場を紹介する映像をご覧いただいた後、実際に工場設備を見学し、最後に質疑応答となります。参加は無料です。事前に申込みが必要ですので、千歳清掃工場までご連絡ください。

	受付人数	開催日	時間
個人見学会	定員 30 名	第四土曜日	13:30~15:00
団体見学	10 名以上 30 名以下	火~金曜日 (祝日を除く)	午前の部 9:30~11:00
社会科見学	90 名以下		午後の部 13:30~15:00

個人見学会の詳細は、  
下記2次元コードより



8月6日、7日の「せたがやふるさと区民まつり」に出展しました。

両日とも天候に恵まれ、延べ1,959名の皆様にご来場いただきました。

「スマート資源分別ゲーム」を通して、ごみの分別の大切さを学んでいただきました。



8月23日に千歳温水プール主催の下、「親子施設探検隊」を開催しました。

当日は、通常の見学では見ることのできないクレーンの操作方法を、運転手の間近で見学していただきました。

年に一度開催の人気イベントで、例年7月頃に世田谷区の広報で募集を開始しています。

## ●●●適正なごみの分別にご協力をお願いします●●●

「不適正ごみ」に分類される金属や粗大ごみを焼却することは、機器の不具合や故障の要因となり、焼却炉の緊急停止につながる恐れがあります。実際、今年8月に、ごみの燃えがら（焼却灰）を運ぶ灰コンベアの隙間にトレーニング用の金属ウエイトが挟まり、焼却灰の排出ができずに焼却炉が緊急停止となりました。焼却炉が停止すると、焼却炉の立上げや立下げに燃料費が必要となることに加え、ごみの燃焼で得られる発電収入も無くなり、多額の損失が発生します。また、ごみを他の工場へ搬入することで、収集作業の遅れや道路の渋滞など、区民の皆様にも様々な影響を及ぼす可能性があります。千歳清掃工場では、搬入物検査や啓発活動により不適正ごみの搬入防止に努めています。区民の皆様には、引き続き分別のご協力をお願いします。



<灰コンベアに挟まっていた金属ウエイト>



<搬入物検査>



<検査で見つかった不適正ごみ>